

1	公開授業実施日時	2019年2月6日（水）9:45～10:30
2	場所	京都教育大学附属桃山小学校 4年1組教室
3	対象	4年1組 30名
4	授業者	大島 彰央
5	島名	グローバル・ヒストリー
6	単元名	古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市
7	関連する教科・領域	社会科
8	単元の目標・ねらい	京都府の様子について、古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市の人々の生活を通して、資料を活用したり実際に話を聞いたりして調べ、府の特色を考え、表現する。
9	グローバル・スタディーズとしての目標・ねらい	外国でも受け入れられている日本文化から学習問題を見いだして追究し、宇治が歴史的地理的な特色を生かし、優れた手づくりの伝統技術を受け継いだ産業がさかんであることを理解するとともに、伝統文化に対する誇りと愛情を持つことができるようにする。
10	単元の評価規準【教科・領域として】	京都府の伝統産業について関心をもって学習の問題を見だし、製品や産業の様子を観察、調査したり、生産工程を見学したりして課題を追究し、京都府が歴史的地理的な特色を生かし、優れた手づくりの伝統技術を受け継いだ産業がさかんであることを理解し、伝統産業の特色について考え適切に判断し表現する。
11	単元の評価規準【グローバル・スタディーズとして】	外国でも受け入れられている日本文化から学習問題を見いだして追究し、宇治が歴史的地理的な特色を生かし、優れた手づくりの伝統技術を受け継いだ産業がさかんであることを理解するとともに、伝統文化に対する誇りと愛情を持つことができるようにする。
12	単元計画	第1時「宇治茶が台湾で人気の理由を考えよう」（本時） 第2時「宇治茶作りがさかんな地域を調べよう」 第3時「宇治茶の作り方を調べよう」 第4時「今と昔の宇治茶の作り方を比べよう」 第5・6時「宇治茶を作っている方々にお話を聞いてみよう」 第7時「宇治茶に関わっている人々の思いを考えよう」
13	本時の目標	宇治茶が海外で親しまれている理由を考えよう
14	本時の展開	≪別紙指導案を参照してください。≫
15	グローバル・スタディーズとしての特徴	「お茶」は、日常的に飲むものであり、「抹茶ケーキ」が給食に出たり、「抹茶アイスクリーム」を食べることが好きな児童も多かったりするため、児童にとって身近な教材であるということができらるであろう。また、本校の児童は、宇治から通学している児童もおり、児童にとってより身近な教材ということが出来る。そして、その身近なものが外国でも親しまれているという着眼点の元、その理由を考える中で学習課題を見つけ、それらを解決していくことを通して、優れた手作りの伝統技術を受け継いだ産業がさかんであることを理解し、自国（地元）の伝統文化を再認識すると共に、誇りを持つことができるようにする。

16 授業者から一言	<p>「外国でも親しまれている」ということで、「日本の文化」の伝統や良さについて再確認することができた。実際にお茶やさんに話を聞かせていただくことで、より深い学びを得ることができたり、「宇治茶を世界に広めていきたい。」という生の声を聞いたりすることで、より宇治茶の伝統や良さについて実感を持って学ぶことができた。</p> <p>※ お茶やさんに教えていただいた話の中で「宇治茶」とは、宇治近郊で作られた茶葉を使用し、最終加工地が宇治であるものを指すと知った。そのため、本時で紹介した「宇治茶」のCMは、現地（台湾）で育てた茶葉を使用し、現地生産・加工をしているため、同じ製法であっても「宇治茶」ではない。授業をする上では、その辺を改良する必要がある。</p>
------------	---

グローバル人材育成プログラム授業実践指導案

研究主題

言葉や文化の違いを認め合い、さまざまな人たちとすすんで関わり合える子の育成

中学年におけるめざす子ども像

自国の文化についての知識を深めたり、文化背景の異なる人と関わったりする中で、言語や文化の多様性を知る

1. 教科名 社会
2. 授業テーマ 古くから受けつがれてきた産業のさかんな宇治市
3. プログラム名 グローバル・ヒストリー
4. プログラムのねらい

外国でも受け入れられている日本文化から学習の問題を見いだして追究し、京都府が歴史的地理的な特色を生かし、優れた手づくりの伝統技術を受け継いだ産業がさかんであることを理解するとともに、伝統文化に対する誇りと愛情を持つことができるようにする。

5. 教材とグローバル人材育成の接点

「お茶」は、日常的に飲むものであり、「抹茶ケーキ」が給食に出たり、「抹茶アイスクリーム」を食べることが好きな児童も多かったりするため、児童にとって身近な教材であるということができよう。また、本校の児童は、宇治から通学している児童もおり、児童にとってより身近な教材ということができる。

本単元導入では、台湾にて放送されている宇治茶の CM を見る。外国でも飲まれている理由を考えることを通して学習課題を見つけ、それらを解決していくことを通して、優れた手作りの伝統技術を受け継いだ産業がさかんであることを理解し、自国（地元）の伝統文化に誇りを持つことができるようにしたい。また、後半では、実際にこの CM を手掛ける「お茶やさん」の方に来ていただき、お話をいただくことで、より実感を持って学ぶことができるようにしたい。

6. 指導計画（全7時間）

- 第1時「宇治茶が台湾で人気の理由を考えよう」
- 第2時「宇治茶作りがさかんな地域を調べよう」
- 第3時「宇治茶の作り方を調べよう」
- 第4時「今と昔の宇治茶の作り方を比べよう」
- 第5・6時「宇治茶を作っている方々にお話を聞いてみよう」
- 第7時「宇治茶に関わっている人々の思いを考えよう」

7. 本時について

- ・日時 平成31年2月6日（木曜日） 第2校時（9：45～10：30）
- ・学年・組 第4学年1組 35名
- ・場所 4年1組教室
- ・本時の目標

「宇治茶が台湾で人気の理由を考えよう」

・本時の展開

学習の内容と活動	指導者上の留意点
<p>○ 台湾にて放送されている宇治茶の CM を見て、気づいたことを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治茶のペットボトルの CM だ ・ どこの国のだろう ・ 漢字だから中国じゃないか <p>○ どこの国で放送されている何の商品の CM かを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾で放送される宇治茶の CM です。 <p>○ なぜ台湾で宇治茶が飲まれているのかということについて考え、交流する。 (個人→グループ交流→全体交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ おいしいから ・ 日本(宇治)だけの作り方だから ・ 品質が良いから ・ めずらしい(台湾にはない)から ・ プロがいいお茶を選んでいるから <p>○ 自分が興味を持った課題について、振り返りに書く。</p>	<p>● CM を見てどこの国の何の商品の CM であるのかということを考えることができるようにする。 必要に応じて字幕から国名やその字の意味を考えることができるようにする。</p> <p>● それぞれの意見について、質問を返すことで、より深く考えることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 台湾のお茶に比べてなぜ宇治茶はおいしいのか ・ 日本だけの作り方とはどのような作り方なのか ・ 品質が良いというのは、なぜなのか ・ そもそも「お茶」とは何なのか ・ お茶の発祥は、中国ではないのか など <p>● 子どもたちの意見を板書にまとめながら、生まれた学習課題を板書に書いていく。</p> <p>● 板書に残った課題をもとに、自分が追究していきたい課題を選ぶことができるようにする。</p> <p>● タブレットを使ってそれぞれが興味を持った課題について、タブレットを使って交流できるようにする。</p>

・評価

台湾で宇治茶が人気である理由を考えることを通して、学習課題を見つけることができる。

(デジタルツール)

板書計画

<p>CM を見て気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇治茶のペットボトルの CM ・ どこの国のだろう ・ 漢字だから中国じゃないか <p>台湾で放送される 宇治茶の CM</p>	<p>疑問</p> <p>なぜ台湾でも宇治茶は飲まれているのだろう。</p> <p>子どもたちの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ おいしい <p>→品質が良い・においが良い?</p> <p>→作り方が日本だけのもの?</p> <p>→どんなプロが作っているの?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ めずらしい <p>→宇治茶は台湾のお茶と違う?</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入れ方が違う <p>→どんな入れ方?</p>
--	--	--